

平成 30 年 3 月 12 日

平成 29 年度 総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 ※該当する () に ○を付ける	・共同研究 (○) ・個人研究 ()	
研究代表者 (所属・職・氏名)	看護学部 准教授 中村昌子	
研究課題名	臥床患者の水平移動の教育方法の開発に関する基礎的研究	
研究分担者氏名	所属・職	役割分担
櫻井 美奈 山住 康恵 池田 康子 中原 るり子	看護学部・看護学科、准教授 看護学部・看護学科、講師 看護学部・看護学科、助手 看護学部・看護学科、教授	研究計画・データ収集・分析・論文作成 研究計画・データ収集・分析・論文作成 データ収集・分析 研究計画・分析・論文作成
研究期間	平成 29 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日	

研究実績の概要

【目的】安全で安楽な臥床患者の水平移動の4つの方法を検証し、基礎看護教育における指導に役立てることを目的とする。

【方法】同意を得た看護学生48名を対象に、上方水平移動と左右水平移動の模擬患者への実施を求めた。すべての実施動作について、看護技術のテキストおよび参考文献をもとに移動方法を作成して体位変換を教授している教員が、表を見せながら実演と口頭によって伝え、練習を求めた。教員が表に基づいて確認した後、実施場面を撮影して画面上で前傾姿勢角度を測定した。所要時間は、動作開始時から終了時までの時間(秒数)を映像から測定した。患者の体圧はFSA4.0(Forth Sensitive Applications)3rdEdition(2007)圧力分布装置(体圧計)を用いて測定した。また、実施の際に看護者が感じた主観的な容易性を4件法で得ると共に自由記載で感想を得た。

【倫理的配慮】研究者所属機関の研究倫理審査委員会で審議、承認(承認番号:KWU-IRBA#16099)を得て実施した。対象者である患者(模擬患者)と看護者(看護師役看護学生)には、口頭及び文書で説明を行い、同意書の署名をもって研究参加の承諾を得た。同意した場合も途中で撤回可能であり、提供データは破棄され、情報が研究のために用いないことを口頭および文書で説明し、研究協力同意撤回書に署名・提出をもって撤回とした。看護者の募集は前期試験終了後に行い、研究協力の有無は学業成績には一切関与しないことを口頭および文書で保証した。撮影時、顔などの個人が特定できる情報が映った場合は、個人が特定できないようにした。すべてのデータは研究者が管理し、研究者だけがアクセス可能とし目的以外では使用せず厳重に保管し、結果公表後保管期間の10年経過後に研究者が責任を持って破棄することとした。

【分析】看護者の動作は、動作分析ソフト(kinovea)を使用して動作と違いを映像により比較した。それぞれの方法による看護者の肩峰と大転子を結んだ線と大転子を通る垂線で形成する最大角度を前傾姿勢角度として、撮影した映像の画面上で測定し比較した。

所要時間は、実施動作開始時から終了時までの時間(秒数)を映像から計測して求め、看護者、移動方法、所要時間を二元配置分散分析、ボンフェローニ法(Bonferroni correction¹⁴)で多重比較した。体圧の変化はFSA4.0(Forth Sensitive Applications)3rdEdition(2007)圧力分布装置(体圧計)を使用し、それぞれの方法による援助終了時点における仙骨部の最大圧力(体圧:mmHg)の違いを比較した。看護者、移動方法、体圧を二元配置分散分析、ボンフェローニ法で多重比較した。主観的な容易性については、実施時に感じた主観的な容易性は、「とても容易である」～「容易でない」の4件法で得られた回答を集計して比較した。自由記載内容は逐語録にし、共通性と類似性が分析しやすいよう単語で区切った。その後、得られた中で共通性・類似性が見られた名詞と動詞から、主観的な容易性に関する単語を抽出し、主観的な容易性の理由を説明する単語を抽出した。これらの語をキーワードとして設定して、Microsoft excelのsearchとcount関数によりキーワード分析を実施し、頻出記載語を抽出して比較した。

研究発表(印刷中も含む)雑誌および図書

【学会発表】

中村昌子, 櫻井美奈, 山住康恵, 中原るり子: 臥床患者の上方移動法の比較-軌跡追跡結果からの考察-, 第37回日本看護科学学会学術集会 一般演題発表(口演), 2017.12. 仙台市.

【論文投稿】

中村昌子, 櫻井美奈, 山住康恵, 池田康子, 中原るり子: 臥床患者の水平移動法の違いによる看護学生の主観的な容易性の検討, 共立女子大学看護学部紀要, 2018.3.